

沖島南の資源保護活動水域におけるシジミ成員の生息密度の推移

孝橋賢一・久米弘人・井戸本純一

1. 目的

琵琶湖最大のシジミ漁場である沖島南漁場においては、新たな資源保護の取り組みとして保護区が設定され、湖底耕耘やヒメタニシの駆除といった漁場改善や2020年以降は親貝や0.3mm稚貝の放流が行われている。そこで本水域における成貝の生息状況を調査し、これら取り組みの評価を行うための基礎データとした。

2. 方法

貝殻の伸長が最も盛んな8月～10月を挟む6月および11月において、沖島南の保護区域の内外に設けたそれぞれ18の調査地点(図1)において、別頁で示した資源概況調査と同様な実採捕調査を行い、殻長14mm以上の個体の生息状況を調査した。

3. 結果

保護区の内側および外側の調査地点での平均の生息密度(漁獲効率を0.5と仮定)を図2に示した。ここ2年間でシジミ成貝生息密度は、保護区の内外にかかわらず6月から11月にかけて増加し、11月から6月にかけて減少するパターンで推移した。また調査時ごとに保護区の内側(B2, B5,

B3, C2, C5, C3)と外側(A1-A4, B1, B4, C1, C4, D1-D4)の生息密度を比較したところ、有意差は認められなかった(表 マンホイットニー順位和検定 $p > 0.05$)。

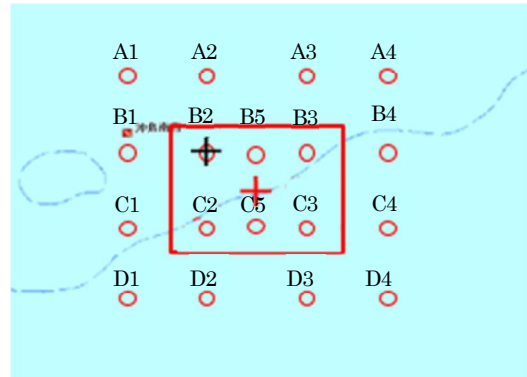


図1 沖島南保護区における調査地点

表 保護区内外におけるシジミ生息密度の比較

調査年月	平均生息密度(個/m ²)		危険率 (P)
	保護区内	保護区外側	
2023年6月	0.612	0.792	>0.05
11月	4.183	2.825	>0.05
2024年6月	0.517	0.683	>0.05
11月	1.633	1.825	>0.05

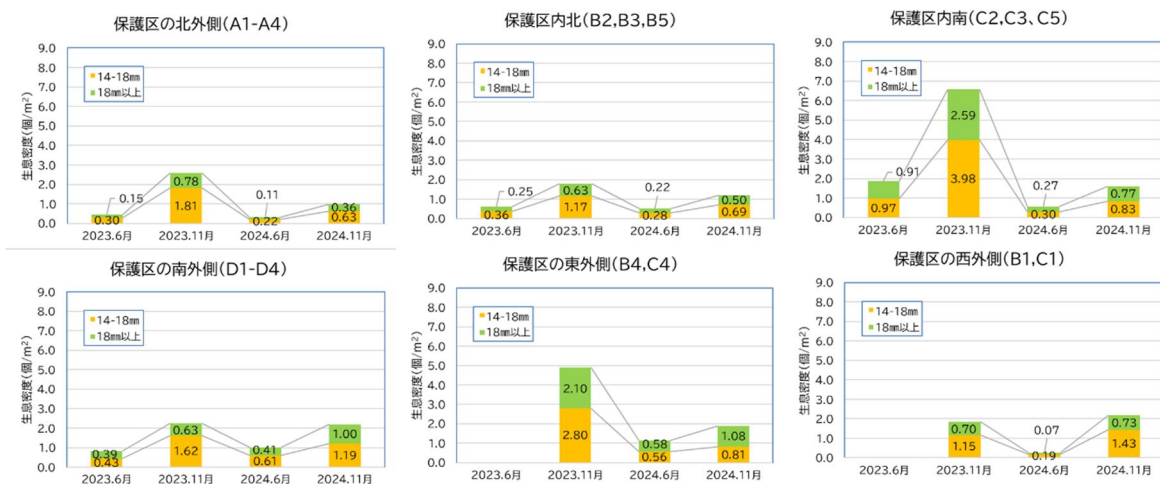


図2 調査地点別生息密度の推移